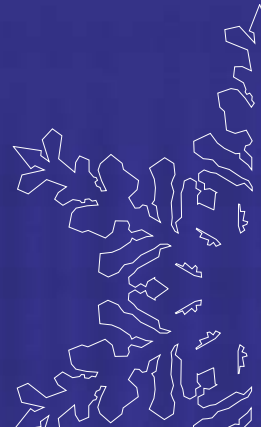




第49期報告書

アニュアル・レポート

平成17年11月1日から平成18年10月31日まで



Dream & Beauty

夢のないところに
実現はない



代表取締役社長

田崎俊作

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成18年10月31日をもちまして、第49期事業年度（平成17年11月1日から平成18年10月31日まで）を終了いたしましたので、ここに事業の概況ならびに主要事項につきましてご報告申し上げます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年1月

事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油をはじめ原材料の高騰などによる影響が懸念されましたが、企業収益の改善や設備投資の増加に加え、個人消費も緩やかに増加するなど拡大基調で推移しました。宝飾業界においても需要増が期待できる環境になりつつあると思われれます。このような状況の中で当社グループは、グローバルな製販一貫体制のもと、売上の拡大と生産販売の効率化に取組んでまいりました。また、間接コストの合理化、有利子負債削減のための取組等、財務体質の強化に努めてまいりました。

当連結会計年度の業績は、売上高が291億22百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は16億64百万円（同10.4%減）、経常利益は4億93百万円（同45.1%減）となりました。当期純利益につきましては、特別損失に固定資産減損損失を19億85百万円計上したこと等により、14億82百万円の損失（前年同期は5億34百万円の損失）となりました。

事業セグメント別の概況

小売事業

小売事業の売上高は173億55百万円で、前年同期比0.8%（1億33百万円）の増収となりました。これは主に、国内市場におけるあこや真珠製品の売上が伸びたためであります。営業利益は、営業費用が1億93百万円増加し、60百万円減益の29億19百万円となりました。

卸売事業

卸売事業の売上高は116億41百万円で、前年同期比6.2%（6億82百万円）の増収となりました。これは主に、海外における売上が伸びたことによるものであります。営業利益は、営業費用が7億76百万円増加したことにより、85百万円減益の9億75百万円となりました。

その他事業

その他の事業は飲食事業であり、売上高は1億25百万円で前年同期比66.4%（2億48百万円）の減収となりました。これは既存店3店のうち2店を閉店したことによるものであります。営業利益は、営業費用が2億57百万円減少し、53百万円の損失（前年同期は58百万円の損失）となりました。

基本的経営方針

国際的製販一貫体制

当社グループの基本的経営戦略は、国際的な製販一貫体制による高付加価値を獲得することにあります。当社グループは、真珠製品については真珠貝の養殖から、ダイヤ製品についてはダイヤ原石の海外入手から、それぞれ加工工程を経て完成品を製造しております。また、販売は国内・海外における小売・卸売へと展開し、製造・販売ともに広範囲にわたる事業活動の中から、付加価値を生み出す仕組みを持ってまいります。この事業構造をさらに高収益化し、株主価値を高めるため、次項に掲げる事業戦略・施策を、計画的に遂行してまいります。

事業戦略・施策

お客様満足度の向上と高成長性の確保……………

お客様のニーズに即応し、デザイン力を高め、魅力ある高品質の商品を提供いたします。店舗のスクラップ・アンド・ビルドとリニューアルを積極的に進め、販売員の教育も充実し、お客様サービスの向上に努めます。また、新規顧客および販売ルートの開拓に継続して取り組み、効果的な広告宣伝により、グローバルなブランド力も強化し、販売の拡大を図ってまいります。

収益力・財務体質の強化……………

生産コストの合理化と販売部門の効率化を図り、管理間接コストの徹底した削減に継続して取り組みます。また、たな卸資産の圧縮を図り、生産・仕入・販売の最適化を推進します。これにより、潤沢なキャッシュ・フローを生み出し、有利子負債の削減と、積極的な事業活動のための投資原資を確保いたします。

目標管理の徹底による経営改善の推進……………

経営目標達成に向け、毎月の生産販売等について、部門別にきめ細かな目標管理を継続実施し、目標の達成責任の明確化等、その運営管理を徹底してまいります。これにより、全社一丸となった経営改善活動を強力に推進してまいります。

未来を切り拓く、田崎真珠のビジョン

T r u s t
C r a f t
Globalism



『TASAKI真珠婚パーティー』開催

平成
18年6月

銀婚式(25周年)、金婚式(50周年)とあるように、結婚30周年は「真珠婚」と呼ばれています。この「真珠婚」の知名度を高めるために、約50組のお客様をご招待し、初めて「TASAKI真珠婚パーティー」を開催。「真珠ネックレスの贈呈式」などの趣向をお楽しみいただきました。今後も「真珠婚」をキーワードにして、新しいファン作りに取り組んでまいります。



『JJAジュエリーデザインアワード』において 当社4作品が受賞

平成
18年8月

社団法人日本ジュエリー協会主催の「JJAジュエリーデザインアワード2006」において当社デザイナー4名が受賞、タサキのデザイン力をアピールしました。厚生労働大臣賞・白井麻衣子(写真①)、日本ジュエリー協会会長賞・秋田俊彦(写真②)、優秀賞・会田佳奈、本丸かな子



今期のTASAKIペルーレ FC

日本代表(なでしこジャパン)メンバー5人をはじめ、次期もアグレッシブな戦いを繰り広げ、タサキのイメージアップに努めます。

- ※「なでしこスーパーカップ」優勝(平成18年5月)
- ※「のじぎく兵庫国体」第3位(平成18年10月)
- ※「なでしこリーグ2006」第3位(平成18年11月)
- ※「第28回全日本女子サッカー選手権大会」優勝(平成19年1月)



『のじぎく兵庫国体』に協賛

平成
18年9月
10月

兵庫県で50年ぶりの開催となった『第61回国民体育大会～のじぎく兵庫国体』にオフィシャルサプライヤー企業として協賛。地元での一大イベントに微力ながらお手伝いをいたしました。

中国に新店舗オープン

中国に武漢広場店(平成18年8月)と青島マイカル店(同9月)をオープンいたしました。

また、平成18年12月にリーガロイヤル小倉店をオープンいたしました。なお、平成18年9月に台北信義店を、国内では平成18年11月に心斎橋店を閉店いたしました。

「ダイヤモンド～その永遠の輝き」

土砂1億中にわずか「1」しか発見されないと例えられるほど、希少価値を誇るダイヤモンド。その永遠の宝石が、人の手によってカットされ、磨かれて、真のダイヤモンドとしての命を与えられるまでをご紹介します。



1 マーキング (Marking)

ダイヤモンドの原石は通常2つに切断されますが、内包物の位置や原石の形状を考慮して切断場所を決め、特殊なインクで切断線を書きます。これをマーキングと言います。また、現在では3D解析機器を用いたレーザーマーキングが開発され、精度が飛躍的に向上しています。



マーキング

2 ソーイング (Sawing)

マーキングされた原石は、ダイヤモンドの粉末のついたリン青銅の円盤を使って切断していきます。ダイヤモンドは地球上で最も硬い物質ですので、ダイヤモンドはダイヤモンドでしか加工できません。また、ダイヤモンドは切断可能な方向と不可能な方向があるので、その方向を誤らないように機械に取り付けます。切断時間は1カラット原石で約4時間。現在では研磨技術の発達により、レーザー光線を用いて切断する方法も開発され、加工効率が向上しています。



ソーイング

3 ブルーティング (Bruiting)

切断されたばかりの角張った原石は、機械に取り付けて回転を与え、別の原石を当てて、ダイヤモンド同士の研磨によって外周を円形に削ります。この作業をブルーティングと言います。



ブルーティング

4 研磨加工 (Cut & Polishing)

この後、ダイヤモンドの上半分(クラウン)と下半分(パビリオン)の各8面を粗削りする「ブロッキング」、中央の円周部分(ガードル)を真円に整える「リ・ガードリング」、粗削りされた各面を正しい角度や大きさに整える「リ・ブロッキング」などの研磨作業を行います。研磨作業は「ドップ」と呼ばれる道具に取り付けて固定し、ダイヤモンド粉末を塗った「スケープ」と呼ばれる鍍鉄製の円盤を押し当てて行います。「スケープ」は1秒間に60～70回転という超高速回転しており、その摩擦によりダイヤモンドが研磨されます。そして、最後に「プリリアンターリング」という仕上げの研磨を経て、58面体の美しい「ラウンドブリリアントカット」のダイヤモンドが完成します。



研磨加工



ダイヤモンド研磨工場内

ダイヤモンドのグレードを決める5つのポイント

ダイヤモンドの重量は「カラット」(ct)で表示します。1ctは0.2gで、0.2ct未満の石はメレ石と呼ばれています。

カラット
(Carat)

ダイヤモンドの色は、地色がどの程度無色に近いかでグレードを付けます。ピンク、ブルー等の色合いを持つものは、美しさと希少性からファンシーカラーとして価値が高くなります。

カラー
(Color)

透明度を意味し、ダイヤモンド内の内包物(インクルージョン)や外面的な特徴(プレミッシュ)の状態でグレードを付けます。光の通過を邪魔する内包物が少ないほど価値が高くなります。

クラリティー
(Clarity)

信頼
(Confidence)

サイトホルダーとしての自信と責任を自覚し、当社では「4つのC」にさらに「5つめのC」として「コンフィデンス」を加え、常に信頼していただける商品をご提供しています。

カット
(Cut)

カット各部の割合や角度が正しいかどうか、各面が正しく対称となっているか、カット面の仕上げ状態が良いかどうか、というポイントで評価されます。

国内唯一のサイトホルダー

「サイトホルダー」とは、世界最大手の原石供給元であるデ・ビアス社の販売会社「DTC」から、直接ダイヤの原石供給を受けることができる資格のことです。この資格取得には厳しい審査基準が設けられており、原石の評価能力と研磨能力が優れていることはもちろんのこと、総合的な企業力、マーケティング能力が求められます。当社は1994(平成6)年にこの資格を獲得、以来、高品質の天然ダイヤモンド原石を常に安定して仕入れ、適正な価格で皆様にお届けしております。



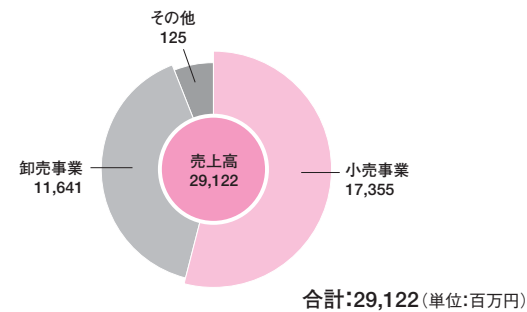
ダイヤモンドの流通経路



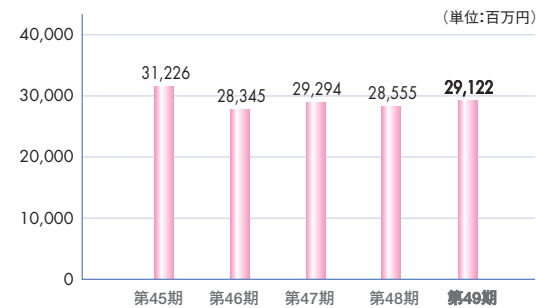
●主要な経営指標等の推移(連結)

	第45期 (平成14年10月期)	第46期 (平成15年10月期)	第47期 (平成16年10月期)	第48期 (平成17年10月期)	第49期 (平成18年10月期)
売上高 (百万円)	31,226	28,345	29,294	28,555	29,122
経常利益 (百万円)	271	47	897	899	493
当期純利益または 当期純損失(△) (百万円)	130	△346	130	△534	△ 1,482
1株当たり当期純利益 または当期純損失(△) (円)	3.49	△9.47	2.54	△15.58	△ 39.78
総資産 (百万円)	95,863	90,882	87,642	86,421	82,224
純資産 (百万円)	40,300	39,385	38,954	38,669	36,884
1株当たり純資産額 (円)	1,078.71	1,055.23	1,043.51	1,036.34	990.12
自己資本比率 (%)	42.0	43.3	44.4	44.7	44.9

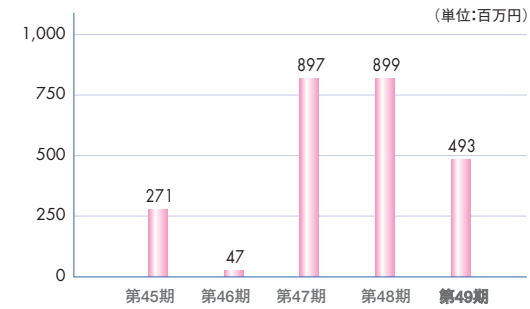
●事業セグメント別売上高



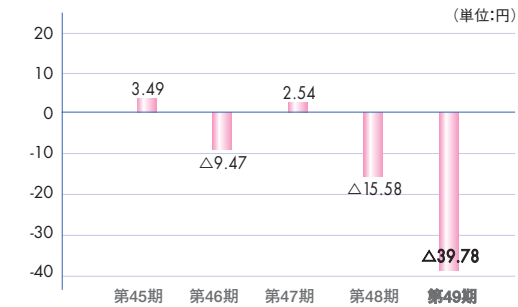
●売上高



●経常利益



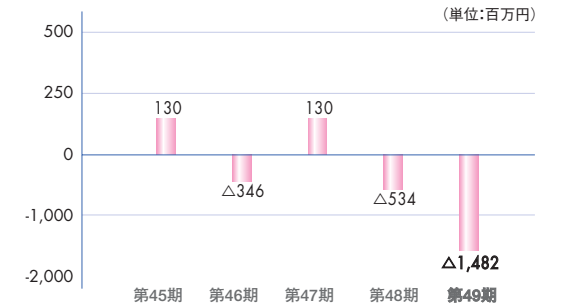
●1株当たり当期純利益または当期純損失(△)



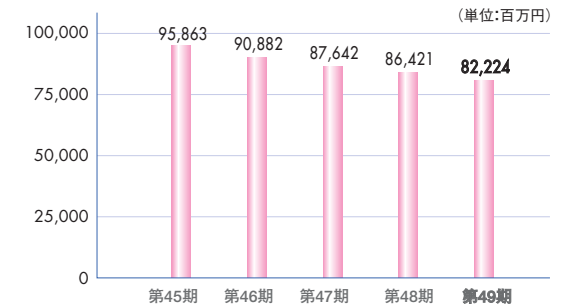
●純資産&自己資本比率



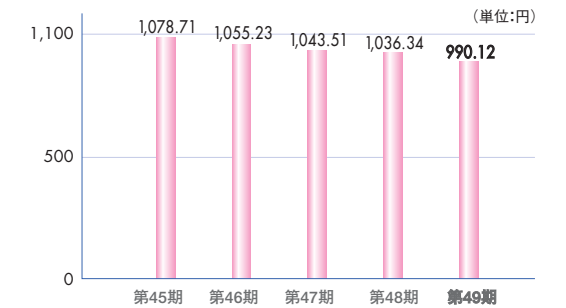
●当期純利益または当期純損失(△)



●総資産



●1株当たり純資産額



●貸借対照表 CHECK.1

科目	当 期 前 期		科目	当 期 前 期	
	(平成18年10月31日現在)	(平成17年10月31日現在)		(平成18年10月31日現在)	(平成17年10月31日現在)
資産の部					
流動資産	48,315	49,862	負債の部		
現金及び預金	3,370	3,727	流動負債	17,977	24,883
受取手形及び売掛金	3,094	3,366	支払手形及び買掛金	414	358
たな卸資産	39,408	39,782	短期借入金	6,463	3,928
その他	2,613	3,100	一年内返済予定の長期借入金	8,140	10,487
貸倒引当金	△170	△114	一年内償還予定の社債	1,500	1,360
固定資産	33,909	36,512	一年内償還予定の転換社債	-	6,554
有形固定資産	23,660	25,694	その他	1,459	2,194
無形固定資産	2,415	2,413	固定負債	27,362	22,868
投資その他の資産	7,833	8,404	社債	-	1,500
投資有価証券	3,060	3,175	長期借入金	19,860	13,500
繰延税金資産	1,906	1,750	退職給付引当金	5,153	5,136
その他	3,228	3,759	再評価に係る繰延税金負債	1,971	2,360
貸倒引当金	△362	△280	その他	377	371
繰延資産	-	46	負債合計	45,340	47,751
資産合計	82,224	86,421	資本の部		
			資本金	-	16,662
			資本剰余金	-	16,359
			利益剰余金	-	2,614
			土地再評価差額金	-	2,663
			その他有価証券評価差額金	-	469
			為替換算調整勘定	-	83
			自己株式	-	△183
			資本合計	-	38,669
			負債及び資本合計	-	86,421
			純資産の部		
			株主資本	34,183	-
			資本金	16,664	-
			資本剰余金	16,361	-
			利益剰余金	1,354	-
			自己株式	△197	-
			評価・換算差額等	2,701	-
			その他有価証券評価差額金	467	-
			土地再評価差額金	2,096	-
			為替換算調整勘定	136	-
			純資産合計	36,884	-
			負債及び純資産合計	82,224	-

●損益計算書 CHECK.2

科目	当 期 前 期	
	[自平成17年11月1日 至平成18年10月31日]	[自平成16年11月1日 至平成17年10月31日]
売上高	29,122	28,555
売上原価	14,896	14,113
売上総利益	14,226	14,442
販売費及び一般管理費	12,561	12,584
営業利益	1,664	1,858
営業外収益	145	259
受取利息及び受取配当金	38	52
為替差益	27	96
その他	80	110
営業外費用	1,317	1,218
支払利息	692	665
社債利息	124	151
その他	499	401
経常利益	493	899
特別利益	101	9
固定資産売却益	2	9
投資有価証券売却益	36	-
確定拠出年金移行差益	62	-
特別損失	2,021	1,466
固定資産除売却損	22	35
減損損失	1,985	-
投資有価証券評価損	12	-
養殖貝異常斃死損	-	222
たな卸資産評価損	-	1,209
税金等調整前当期純損失(△)	△1,425	△558
法人税、住民税及び事業税	273	629
法人税等調整額	△217	△652
少数株主利益	0	0
当期純損失(△)	△1,482	△534

●キャッシュ・フロー計算書 CHECK.4

科目	当 期 前 期	
	[自平成17年11月1日 至平成18年10月31日]	[自平成16年11月1日 至平成17年10月31日]
営業活動によるキャッシュ・フロー	997	△164
投資活動によるキャッシュ・フロー	809	1,994
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,690	△1,970
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	23
現金及び現金同等物の増減額	122	△116
現金及び現金同等物の期首残高	2,544	2,661
現金及び現金同等物の期末残高	2,667	2,544

●株主資本等変動計算書 CHECK.3 当連結会計年度(平成17年11月1日から平成18年10月31日まで) (単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成17年10月31日残高	16,662	16,359	2,614	△183	35,453	469	2,663	83	3,216	38,669
連結会計年度中の変動額										
転換社債の転換による新株の発行		1			3					3
剰余金の配当(期末) ^(注)			△149		△149					△149
剰余金の配当(中間)			△149		△149					△149
役員賞与 ^(注)			△46		△46					△46
当期純損失(△)			△1,482		△1,482					△1,482
土地再評価差額金取崩			566		566					566
自己株式の取得				△13	△13					△13
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△1	△566	53	△514	△514
連結会計年度中の変動額合計	1	1	△1,260	△13	△1,269	△1	△566	53	△514	△1,784
平成18年10月31日残高	16,664	16,361	1,354	△197	34,183	467	2,096	136	2,701	36,884

(注)平成18年1月定時株主総会における利益処分項目であります。

CHECK.1 貸借対照表

前年同期比、総資産は4,196百万円減少しました。これは減損損失などによる固定資産の減少2,033百万円、並びに現金及び預金の減少356百万円、たな卸資産の減少374百万円などです。負債は2,411百万円減少しました。その主なものは有利子負債の減少1,367百万円、未払法人税等の減少569百万円です。

CHECK.2 損益計算書

売上高は、前年同期比567百万円増加しましたが、売上原価の増加による売上総利益は215百万円減少し、営業利益も193百万円減少しました。営業外収益を加減し、経常利益は405百万円減少となりました。特別損失に減損損失を1,985百万円計上したことなどにより、税効果計算の結果、当期純損失は1,482百万円の損失となりました。

CHECK.3 株主資本等変動計算書

株主資本合計は、剰余金の配当298百万円、当期純損失1,482百万円等を減算し土地再評価差額金取崩566百万円を加算した結果、34,183百万円となりました。評価・換算差額等合計2,701百万円を加算し、当期末損失に減損損失を1,985百万円計上したことなどにより、税効果計算の結果、当期純損失は1,482百万円の損失となりました。

CHECK.4 キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは997百万円の増加となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻し、有価証券及び有形固定資産の売却収入などにより、809百万円の増加となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは社債満期償還などにより1,690百万円の減少となり、現金及び現金同等物は、122百万円の増加となりました。



●貸借対照表

科目	当 期 前 期	
	(平成18年10月31日現在)	(平成17年10月31日現在)
資産の部		
流動資産	45,787	47,646
現金及び預金	3,039	3,422
受取手形及び売掛金	3,700	4,104
たな卸資産	36,832	37,263
その他	2,842	3,294
貸倒引当金	△ 627	△ 438
固定資産	36,165	38,881
有形固定資産	23,539	25,493
無形固定資産	2,307	2,303
投資その他の資産	10,318	11,084
投資有価証券	5,491	5,978
繰延税金資産	1,884	1,695
その他	3,307	3,691
貸倒引当金	△ 364	△ 280
資産合計	81,952	86,528

科目	当 期 前 期	
	(平成18年10月31日現在)	(平成17年10月31日現在)
負債の部		
流動負債	17,312	24,143
支払手形及び買掛金	317	310
短期借入金	6,050	3,450
一年内返済予定の長期借入金	8,140	10,487
一年内償還予定の社債	1,500	1,360
一年内償還予定の転換社債	-	6,554
その他	1,304	1,981
固定負債	27,352	22,856
社債	-	1,500
長期借入金	19,860	13,500
退職給付引当金	5,153	5,132
再評価に係る繰延税金負債	1,971	2,360
その他	367	363
負債合計	44,664	47,000
資本の部		
資本金	-	16,662
資本剰余金	-	16,359
利益剰余金	-	3,556
土地再評価差額金	-	2,663
その他有価証券評価差額金	-	469
自己株式	-	△ 183
資本合計	-	39,527
負債及び資本合計	-	86,528
純資産の部		
株主資本	34,723	-
資本金	16,664	-
資本剰余金	16,361	-
利益剰余金	1,894	-
自己株式	△ 197	-
評価・換算差額等	2,564	-
その他有価証券評価差額金	467	-
土地再評価差額金	2,096	-
純資産合計	37,288	-
負債及び純資産合計	81,952	-

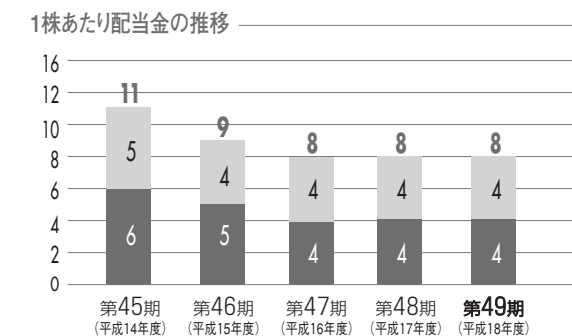
●損益計算書

科目	当 期 前 期	
	[自平成17年11月1日 至平成18年10月31日]	[自平成16年11月1日 至平成17年10月31日]
売上高	27,834	27,353
売上原価	15,092	14,322
売上総利益	12,741	13,030
販売費及び一般管理費	11,777	11,678
営業利益	964	1,351
営業外収益	620	576
受取利息及び受取配当金	409	314
その他	211	262
営業外費用	1,364	1,271
支払利息	670	648
社債利息	124	151
その他	569	471
経常利益	221	657
特別利益	102	42
貸倒引当金戻入益	2	42
投資有価証券売却益	36	-
確定拠出年金移行差益	62	-
特別損失	2,256	1,713
固定資産除売却損	22	32
減損損失	1,934	-
投資有価証券評価損	12	-
子会社株式評価損	287	249
養殖具異常斃死損	-	222
在庫評価損	-	1,209
税金等調整前当期純損失(△)	△ 1,932	△ 1,012
法人税、住民税及び事業税	261	493
法人税等調整額	△ 310	△ 543
当期純損失(△)	△ 1,884	△ 963
前期繰越利益	-	13
中間配当積立金取崩額	-	149
中間配当額	-	149
当期末処理損失(△)	-	△ 949

●配当金について

当社グループは、利益配分について長期的な視野に立ち、経済情勢や業界動向、当社グループの業績等を勘案し、積極的かつ安定的に株主の皆様へ利益還元を図ることを基本方針としております。この基本方針に基づき、当期の配当は、1株当たり年間普通配当を8円(中間配当として4円)とする予定です。

●配当金 単位:円



●株主優待 ~1,000株以上お持ちの株主様への大きな特典~

■株主ご優待カード



割引額	
真珠ネックレス	20% 割引
その他の商品	15% 割引

- 「株主ご優待割引券」との併用が可能です。
- 10月末日現在の1,000株以上ご所有の株主様が対象となります。有効期限は、翌年1月末日までの1年間です。また、11月1日以降翌年4月30日までに新規に1,000株以上ご所有となられた毎年4月30日現在の株主様に対しましても、残余の有効期限を有する株主ご優待カードを発行いたします。
- 10月末日現在の株主様には翌年1月下旬頃に、4月末日現在の株主様には7月上旬頃にお送りしております。

■株主ご優待割引券



発行基準			
1,000株以上	1枚	20,000株以上	6枚
3,000株以上	2枚	30,000株以上	8枚
5,000株以上	3枚	50,000株以上	10枚
10,000株以上	4枚		

- 年2回、10月末日・4月末日現在の株主様が対象となります。
- 1枚1万円相当/発行後1年間有効です。
- 10月末日現在の株主様には翌年1月下旬頃に、4月末日現在の株主様には7月上旬頃にお送りしております。



会社の概要 (平成18年10月31日現在)

商号	田崎真珠株式会社
創業	昭和29年1月10日
会社設立	昭和34年12月11日
資本金	16,664百万円
従業員数	1,293名
決算期	10月31日
営業目的	真珠の養殖、加工、販売および宝石、貴金属を用いた宝飾品の製造販売ほか
本社	〒650-8550 神戸市中央区港島中町6丁目3番地2 TEL.078-302-3321
東京本社	〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目4番1号 TEL.03-5561-8856
インターネットホームページURL	http://www.tasaki.co.jp

役員 (平成18年10月31日現在)

代表取締役社長	田崎俊作
代表取締役副社長	植田義昭
代表取締役副社長	田崎俊明
取締役副社長	田崎東次郎
取締役社長	田崎征次郎
専務取締役	芝原信博
常務取締役	有上正博
常務取締役	明石靖彦
取締役	茂谷公伸
取締役	隈部俊昭
取締役	田崎将大
常勤監査役	岡澤敏貴
監査役	紅野正樹
監査役	三谷昭三

株式の状況 (平成18年10月31日現在)

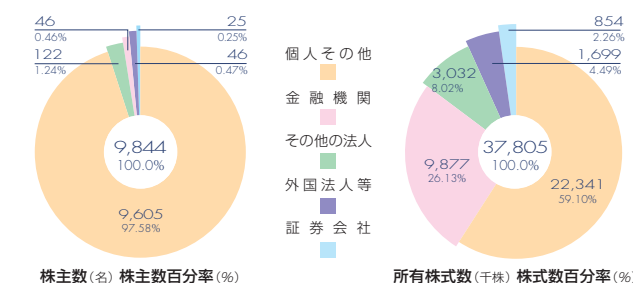
■株式の種類：普通株式

■株式数：発行可能株式総数 120,000,000株
発行済株式の総数 37,805,664株

■当期名義書換：件数 481件 株式数：5,344,140株
■当期株主数：9,844名

大株主の状況

氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式の割合(%)
田崎俊作	2,397,000	6.34
株式会社サハダイヤモンド	1,944,000	5.14
株式会社三井住友銀行	1,841,440	4.87
農林中央金庫	1,197,768	3.17
住友生命保険相互会社	927,000	2.45
株式会社近畿大阪銀行	699,057	1.85
住友信託銀行株式会社	683,000	1.81
田崎真珠社員持株会	675,224	1.79
日本クレジットサービス株式会社(旧JFC)	600,000	1.59
メリリンチ日本証券株式会社	574,000	1.52
合 計	11,538,489	30.52



ネットワーク (平成19年1月現在)

- 事業所
本社(神戸市中央区)、東京本社(東京都港区)、田崎真珠布引ビル(神戸市中央区)、東京田崎ビル(東京都港区)
- 工場
田崎ジュエリービル(神戸市中央区)、六甲工場(神戸市灘区)、大村工場(長崎県大村市)
- 養殖場・研究所
奄美養殖場(鹿児島県大島郡)、天草養殖場(熊本県上天草市)、島原養殖場(長崎県南島原市)、伊ノ浦養殖場(長崎県西海市)、九十九島養殖場(長崎県佐世保市)、平戸養殖場(長崎県平戸市)、伊万里養殖場(佐賀県唐津市)、志岐養殖場(長崎県志岐市)、五島養殖場(長崎県南松浦郡)、田崎海洋生物研究所(徳島県海部郡)
- その他
田崎真珠研修センター(兵庫県三木市)

国内店舗

- 〈東北カンパニー〉
仙台店、田崎真珠エスノビル店、山形大沼百貨店
- 〈首都圏カンパニー〉
田崎真珠銀座店、田崎ハルギヤラリー、成田空港店、田崎オーロラモール店、並木通店、京王プラザ店、帝国ホテルプラザ店、オータニ店、サンシャインシティ店、ランドマークプラザ店、横浜ダイヤモンド地下街店、ジャスコ秦野店、タサキダイヤモンドサロン、TASAKI People御殿場店、TASAKI People佐野店、新潟三越店、スズラン高崎店、スズラン前橋店、大丸東京店、柏ごう店、京王新宿店、東急本店、札幌店、札幌ハセオ店、TASAKI People千歳店
- 〈中部日本カンパニー〉
名古屋東急店、名古屋栄店、田崎真珠ユニモール店、富山店、TASAKI People土岐店
- 〈近畿圏カンパニー〉
京都店、四条河原町店、ザ・キューブ店、なんば店、ヒルトンプラザ店、ディアモール店、帝国ホテルプラザ大阪店、田崎真珠ザ・リッツカールトン大阪、関西空港店、リーガロイヤル大阪店、TASAKI Peopleらんくう店、田崎真珠ギャラリー、神戸ポートピア店、三宮センター街東店、タサキSOL店、神戸空港店、TASAKI People垂水店、高松三越店、高知大丸店、ヤマトヤシキ店、加古川ヤマトヤシキ店
- 〈中国カンパニー〉
広島三越店、広島店
- 〈九州カンパニー〉
天神店、田崎真珠ソリア店、田崎真珠アクロスギャラリー、長崎店、鶴屋百貨店、TASAKI People鳥栖店、リーガロイヤル小倉店
(※色文字は百貨店内店舗)

海外事業所・店舗

- 〈香港／田崎真珠(香港)有限公司〉
香港
- 〈台湾／亜細亜田崎真珠股份有限公司〉
高雄、台北、台中、台南、新竹 計6店舗
- 〈中国／上海田崎真珠有限公司〉
上海、大連、北京、天津、濟南、鄭州、重慶、成都、常州、西安、瀋陽、ハルビン、昆明、武漢 計30店舗
- 〈アメリカ／Tasaki U.S.A. Inc.〉
ニューヨーク
- 〈ミャンマー／MYANMAR TASAKI CO., LTD.〉
ヤンゴン、ドーメル
- 〈ヨーロッパ／Tasaki Euro N.V.〉
アントワープ

株主メモ

事業年度	毎年11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	毎年1月開催
基準日	定時株主総会 毎年10月31日 期末配当金 毎年10月31日 中間配当金 毎年 4月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人	〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所(郵便物送付先)	〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417

(インターネットホームページURL)
http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

同 取 次 所
上 場 証 券 取 引 所
公 告 の 方 法
住友信託銀行株式会社 全国各支店
東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
電子公告(当社のホームページに掲載する。)
<http://www.tasaki.co.jp/what/index.html>